

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	明治学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	メイジガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	社会学部
	担当教職員名・役職	八木原律子(社会学部教授)
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	15
	受入企業等数	14
	受入企業等名	花椿ファクトリー(株)、花王ピオニー(株)、(株)キューピーあい、第一生命チャレンジド(株)、(株)レオパレススマイル、(株)ファンケルスマイル、みずほビジネス・チャレンジド(株)、パナハートフル、大東コーポレートサービス(株)、(株)リクルートオフィスサポート、東芝ウイズ(株)、高田紙器製作所、まるみ、(株)JTBデータサービス
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 11.その他
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	障がい者雇用・就業に焦点を当てた、大企業の特例子会社等でのインターンシップ	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は、「共生社会の理解」を深めるために、「障がい者雇用・就業」に焦点をあてた実習科目である。障がい当事者との体験就労や雇用における「排除」と隣接して暮らす生活者との活動体験を通して学ぶ。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次以上
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年次以上を対象に、主として夏期休業期間中の5日間のインターンシップを社会学部の実習科目「インターンシップ」として実施している。本科目では、①現場経験から企業の視点に立った障がい者雇用のあり方を学ぶ。また障がいのある人の雇用に対する企業の考え方、その背景、仕事の創出過程を学ぶ。②キャリア形成の実践的な学びの場とする。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	3-1.当該インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	秋学期の一連の事後学習の終盤に、インターンシップ先企業担当者を招き、受講学生の報告会を行っているが、その中では単なる報告のみならず、企業への提言も行っている。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ期間中に担当教員が企業担当者と連絡をとり、必要に応じて訪問し、学生に指導を行う。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	春学期に行う事前学習の中で、目標設定、障がい者雇用やビジネスマナーの理解、インターンシップ先の調査と事前訪問を行う。この間4回のレポート提出やグループディスカッション1コマを行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	秋学期の行う事後学習の中で、各自のインターンシップ報告と、グループディスカッションによる報告資料作成、インターンシップ先の企業を招いての報告会(発表と企業からのフィードバック)、報告書作成という流れで振り返りを行う。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ開始日に担当教員から受講生にメールを送り、何かあった場合には相談するように指示。企業とも連絡をとり、問題がある場合には担当教員が企業を訪問し学生を指導する。また終了時には学生から教員にメールでの報告をさせている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受講生は事後学習の中で「インターンシップまとめ」なるA4版2ページ程度の報告書を執筆する。担当教員が内容を指導するプロセスの中で、学生の成長を定性的に確認している。執筆された報告書はインターンシップ先企業に提出している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学がインターンシップ受け入れ先企業と取り交わす「覚書」には、派遣期間として「原則5日間以上」が明記されている。実際の派遣期間は大学、企業、派遣学生の間で協議の上決定することとなっている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	

	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの社会貢献としての意義を企業に理解していただいた上で、事後学習にも参加してもらい、受講生に対してフィードバックのコメントをしていただいている。また、インターンシップの後、卒論指導にも応じていただいていたこともある。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://kyomu.meijigakuin.ac.jp/kyomu/UnSSOLoginControlFree (科目名は半角で入力)
問い合わせ先	大学等名	明治学院大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	次長
	担当者氏名	佐藤 純
	電話番号	03-5421-5162
	メールアドレス	satojun@mguad.meijigakuin.ac.jp